

## II. 履修基準等

### 1. 履修基準表

卒業に必要な単位数を表す履修基準は以下のとおりである。

【全学教育科目】2020年度の入学生に適用する履修基準表

(数字は単位数)

	基礎科目		グローバル 教育科目	イノベーション 教育科目	健康 スポーツ 科目	外国語科目	全学教育 科目合計
	人文 社会系	自然 科学系					
都市社会共生学科	4以上 (注1)	4以上	選択		選択 (0以上 2以下)	英語科目 6 以上 初修外国語科目 4 以上 計 12 以上(注4)	30
建築学科						英語科目 6 以上 初修外国語科目 2 以上 計 10 以上(注3・注4)	
都市基盤学科							
環境リスク共生学科							
全学科共通	高度全学教育指定科目から3年次以降に4以上(注2)						

(注1)都市基盤学科、環境リスク共生学科の私費外国人留学生(YGEP-N2)においては、日本事情科目を基礎科目(人文社会系科目)に代替できる。

(注2)高度全学教育指定科目として3年次以降に学科が指定した基礎科目、グローバル教育科目及びイノベーション教育科目の中から4単位以上を履修すること。

(注3)外国人留学生においては、日本語科目を外国語科目に代替できる。

(注4)外国語科目計12単位(都市社会共生学科)又は、10単位(都市社会共生学科以外)のうち2単位までは、学科の指定した英語による授業科目で算入することができる。

【学部教育科目】2020年度の入学生に適用する履修基準表

(数字は単位数)

	基礎 演習 科目	リテ ラシ ー科 目	学部共通科目 (基幹知科目)				専門基礎 科目	専門 科目	学部教育 科目合計	総計 (全学教育科目と 学部教育科目の 合計)	
			都市 科学 の基 礎	グロー バル・ロ ーカル 関連	リスク共 生関連	イノベーシ ョン関連					
都市社会共生 学科	1		14以上	4	2科目 以上	2科目 以上	2科目 以上	5	74以上	94	124
建築学科	3		14以上	4	2科目 以上	2科目 以上	2科目 以上	12以上	63以上	94	124
都市基盤学科	1 以上	2	14以上	4	2科目 以上	2科目 以上	2科目 以上	14以上	63以上	94	124
環境リスク共生 学科	3		14以上	4	2科目 以上	2科目 以上	2科目 以上	17以上	60以上	94	124

・学部共通科目の「グローバル・ローカル関連」、「リスク共生関連」、「イノベーション関連」の欄は、単位数ではなく科目数であることに注意すること。

・都市社会共生学科は、学部教育科目のうち2単位以上は、英語を使用または英語のテキストを中心的に用いる英語関連科目を修得すること。

・建築学科・都市基盤学科・環境リスク共生学科は、学部教育科目のうち2単位以上は、英語で開講されている科目を修得すること。

・必ず各学科のページでも詳細を確認すること。

## 2. 学部共通科目（基幹知科目）

都市科学の基幹知を学ぶ学部共通科目（基幹知科目）については、必修科目3科目4単位とグローバル・ローカル関連科目2科目以上、リスク共生関連科目2科目以上、イノベーション関連科目2科目以上を含む合計14単位以上を修得すること。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	セメスター ／ターム (※)	単位数		備考	
				必修	選択 必修		
学部 共通 科目	都市科学の基礎	都市科学A(グローバル・ローカル)	1	春	2		
		都市科学B(リスク共生)	1	④	1		
		都市科学C(イノベーション)	1	⑤	1		
	グローバル・ローカル関連科目	地域連携と都市再生A【ヨコハマ地域学】	1	春		2	
		地域連携と都市再生B【かながわ地域学】	1	秋		2	
		都市社会基礎論	1	秋		2	
		社会調査法A	2	①		1	
		社会調査法B	2	②		1	
		GISによる地域解析概論	2・3・4	春		2	
		Facilitation and Empowerment for Team Building(組織風土ファシリテーションとチームエンパワメント)	2・3	秋		2	英語
		都市リスクの空間分析とマネジメントA	2・3	①		1	
		建築芸術史論A	2・3・4	①		1	(*)
		建築芸術史論B	2・3・4	②		1	(*)
		都市基盤構造力学	1	④		1	
		都市基盤材料複合力学	2	④		1	
	リスク共生 関連科目	生態リスク学入門	1	①		1	
		リスク分析のための情報処理A	2	④		1	
		高齢社会とリスクA	2	④		1	
		都市環境リスク共生論A	2	④		1	
		社会リスク学A	2	①		1	
		社会リスク学B	2	②		1	
		居住空間の計画Ⅰ	2	①		1	
		居住空間の計画Ⅱ	2	②		1	
		都市基盤水理学	2	①		1	
		都市基盤土質力学	2	①		1	
	Modeling with Statistics and Meta-Data (メタデータ分析とリスク予測)	2・3	春		2	英語	
	イノベーション 関連科目	Business Administration and its Operation (企業経営とオペレーション)	2・3	秋		2	英語
		都市基盤計画論	1	①		1	
		グローバルビジネスとイノベーションA	3	④		1	
		建築と都市のメディア・デザインⅠ	3・4	④		1	
		建築と都市のメディア・デザインⅡ	3・4	⑤		1	
		社会デザイン・フューチャーセッション	2・3	春		1	(*)
		都市生態学	1	④		1	
ジェンダーと共生(開発)		2	⑤		1		
ジェンダーと共生(文化)		2	⑤		1	英語	
建築と社会のデザイン	1・2・3・4	②		1			

(※) 春＝春セメスター、秋＝秋セメスター、丸数字＝各タームを表す。なお、配当年次、開講タームは今後変更も想定されるため、毎年春に配布される時間割表を必ず確認すること。/(\*) 建築学科の学生はB8ページの履修年次を参照すること。

### 3. 都市科学部学科指定科目

都市科学部では、学部や学科が独自に科目区分を指定する科目がある。

1. グローバル教育科目(国際交流科目)の都市科学部における扱い
2. 高度全学教育指定科目(全学教育科目)
3. 外国語科目(全学教育科目)に算入できる指定科目
4. 英語関連科目(学部教育科目)

各指定科目の内容は、それぞれの説明を読むこと。

#### 1. グローバル教育科目(国際交流科目)の都市科学部における扱いについて

都市科学部においては、グローバル教育科目(国際交流科目)の扱いが他の学部と異なる。

全学教育科目履修案内においてグローバル教育科目(国際交流科目)として掲載されている科目であっても、学部教育科目や基礎科目として扱う科目があるため、これらの科目を履修する場合は、別途配布する資料の表により、都市科学部における科目区分を確認すること。また、年度により科目が変更になる場合があるので、必ず履修登録を行う年度の科目を確認すること。

#### 2. 高度全学教育指定科目(全学教育科目)

高度全学教育指定科目は、全学教育科目の中から学科が指定した基礎科目、グローバル教育科目及びイノベーション教育科目の中から4単位以上を3年次以降に履修する必要がある。(都市科学部履修案内 p8、「1. 履修基準表」の注2)

以下に示す科目の単位を3年次以降に修得した場合は、高度全学教育指定科目を履修したものと扱う。

#### 都市社会共生学科

科目区分	科目名
基礎科目 人文社会系	哲学
	宗教学
	東洋思想史
	英米文学
	ヨーロッパ文学
	人と動物の関係学
基礎科目 自然科学系	地球と惑星の科学Ⅰ
	地球と惑星の科学Ⅱ
	古生物の科学Ⅰ
	古生物の科学Ⅱ
	生物の世界Ⅰ
	生物の世界Ⅱ
	国土学とグローバル社会Ⅰ
	国土学とグローバル社会Ⅱ
	建築の環境と防災
	都市と建築
	環境リスクとつきあうⅠ
	環境をめぐる諸問題Ⅰ
	環境をめぐる諸問題Ⅱ
	地質リスクマネジメントⅠ
地質リスクマネジメントⅡ	
グローバル教育科目	「世界事情科目」及び別紙「グローバル教育科目(国際交流科目)の都市科学部における扱いについて」の表の中で、都市科学部における科目区分が「グローバル教育科目(国際交流科目)」となっている科目(ただし、海外旅行安全対策・危機管理Ⅰ・Ⅱは除く)
イノベーション教育科目	「技術革新思考(領域)」、「社会実装戦略(領域)」及び「キャリア形成実践知(領域)」のうち、ナンバリング 2000 及び 3000 番台の科目

## 建築学科

科目区分	科目名
基礎科目 人文社会系	哲学
	宗教学
	東洋思想史
	現代芸術論
	映画論
	英米文学
	ヨーロッパ文学
	横浜学--地域の再発見--
	文化人類学の考え方
	人と動物の関係学
基礎科目 自然科学系	地球と惑星の科学Ⅰ
	地球と惑星の科学Ⅱ
	古生物の科学Ⅰ
	古生物の科学Ⅱ
	生物の世界Ⅰ
	生物の世界Ⅱ
	土木史と文明Ⅰ
	土木史と文明Ⅱ
	国土学とグローバル社会Ⅰ
	国土学とグローバル社会Ⅱ
	研究開発論-大学・企業・イノベーション-
	情報と社会
	環境リスクとつきあうⅠ
	環境リスクとつきあうⅡ
	環境をめぐる諸問題Ⅰ
	環境をめぐる諸問題Ⅱ
地質リスクマネジメントⅠ	
地質リスクマネジメントⅡ	
グローバル教育科目	「世界事情科目」及び別紙「グローバル教育科目(国際交流科目)の都市科学部における扱いについて」の中で、都市科学部における科目区分が「グローバル教育科目(国際交流科目)」となっている科目(ただし、海外旅行安全対策・危機管理Ⅰ・Ⅱは除く)
イノベーション教育科目	「技術革新思考(領域)」、「社会実装戦略(領域)」及び「キャリア形成実践知(領域)」のうち、ナンバリング 2000 及び 3000 番台の科目

## 都市基盤学科

科目区分	科目名
基礎科目	全ての基礎科目
グローバル教育科目	「世界事情科目」及び別紙「グローバル教育科目(国際交流科目)の都市科学部における扱いについて」の表の中で、都市科学部における科目区分が「グローバル教育科目(国際交流科目)」となっている科目(ただし、海外旅行安全対策・危機管理Ⅰ・Ⅱは除く)
イノベーション教育科目	「技術革新思考(領域)」、「社会実装戦略(領域)」及び「キャリア形成実践知(領域)」のうち、ナンバリング 2000 及び 3000 番台の科目(ただし、都市計画と交通は除く)

環境リスク共生学科

科目区分	科目名
基礎科目	全ての基礎科目
グローバル教育科目	「世界事情科目」及び別紙「グローバル教育科目(国際交流科目)の都市科学部における扱いについて」の表の中で、都市科学部における科目区分が「グローバル教育科目(国際交流科目)」となっている科目(ただし、海外旅行安全対策・危機管理Ⅰ・Ⅱは除く)
イノベーション教育科目	「技術革新思考(領域)」、「社会実装戦略(領域)」及び「キャリア形成実践知(領域)」のうち、ナンバリング 2000 及び 3000 番台の科目(ただし、都市計画と交通は除く)

### 3. 外国語科目(全学教育科目)に算入できる指定科目

全学教育科目で修得する必要がある外国語科目合計 12 単位(都市社会共生学科)又は 10 単位(建築学科、都市基盤学科及び環境リスク共生学科)のうち 2 単位までは、学科の指定した以下の英語による授業科目で算入することができる。(都市科学部履修案内 p8、「1. 履修基準表」の注4)これらの科目を外国語科目に算入した場合は、科目区分が外国語科目に変更され、元の科目区分としては算入されない。

外国語科目として算入する場合は、当該科目の単位を取得した後に都市科学部学務係に申し出ること。

#### 都市社会共生学科

・別紙「グローバル教育科目(国際交流科目)の都市科学部における扱いについて」の表の中で都市科学部が「グローバル教育科目(国際交流科目)」として扱う科目の中から 2 単位まで算入することができる。ただし、「海外旅行安全対策・危機管理Ⅰ」及び「海外旅行安全対策・危機管理Ⅱ」は日本語で開講されるため除く。

・次項の4. 英語関連科目で指定した科目から 2 単位まで算入できる。

ただし、外国語科目として算入した科目は、英語関連科目に算入できなくなるので注意すること。

#### 建築学科、都市基盤学科、環境リスク共生学科

別紙「グローバル教育科目(国際交流科目)の都市科学部における扱いについて」の表の中で都市科学部が「グローバル教育科目(国際交流科目)」として扱う科目の中から 2 単位まで算入することができる。ただし、「海外旅行安全対策・危機管理Ⅰ」及び「海外旅行安全対策・危機管理Ⅱ」は日本語で開講されるため除く。

### 4. 英語関連科目(学部教育科目)

都市科学部の学生は、学部教育科目の中から学科の指定した以下の英語に関する科目を 2 単位修得する必要がある。

都市社会共生学科では英語を使用または英語のテキストを中心的に用いる科目を、建築学科、都市基盤学科、環境リスク共生学科では、英語で開講されている科目を指定している。

#### 都市社会共生学科

※都市社会共生学科の英語関連科目(学部教育科目)は別紙・掲示等を毎年度確認すること。

#### 建築学科

科目区分	科目名
学部共通科目	Modeling with Statistics and Meta-Data (メタデータ分析とリスク予測)
	Facilitation and Empowerment for Team Building (組織風土ファシリテーションとチームエンパワメント)
	Business Administration and its Operation (企業経営とオペレーション)
	ジェンダーと共生(文化)
専門関連科目	建築プレゼンテーション
	建築実践英語 A
	建築実践英語 B
	Prospects of Arch, Infstr, Eng & Ecosystem Sci (都市創成技術(建築都市・環境学))

### 都市基盤学科

科目区分	科目名
学部共通科目	Modeling with Statistics and Meta-Data (メタデータ分析とリスク予測)
	Facilitation and Empowerment for Team Building (組織風土ファシリテーションとチームエンパワメント)
	Business Administration and its Operation (企業経営とオペレーション)
専門関連科目	都市基盤英語 A
	都市基盤英語 B
	Prospects of Arch, Infstr, Eng & Ecosystem Sci (都市創成技術(建築都市・環境学))

### 環境リスク共生学科

科目区分	科目名
学部共通科目	Modeling with Statistics and Meta-Data (メタデータ分析とリスク予測)
	Facilitation and Empowerment for Team Building (組織風土ファシリテーションとチームエンパワメント)
	Business Administration and its Operation (企業経営とオペレーション)
	ジェンダーと共生(文化)
専門関連科目	環境政策(英語)
	生態リスクマネジメント事例研究
	Prospects of Arch, Infstr, Eng & Ecosystem Sci (都市創成技術(建築都市・環境学))

## 4. 他学部開放科目及び YCCS 科目

### (1) 他学部開放科目

他学部が全学開放科目として提供する科目を履修することができる。修得した単位は増加単位として扱われ、卒業単位として算入することはできない。各学部の授業科目及び履修上の注意については都市科学部学務係に問い合わせること。

### (2) YCCS 科目

YCCS科目とは、学部横断の教育プログラムである「Yokohama Creative-City Studies (YCCS) 特別プログラム」が開設する英語による授業科目である。主にYCCS学生や本学と協定を結んでいる外国からの短期交換留学生在が履修しているが、日本人学生も履修することができる。このYCCS科目は、都市科学部においては、科目によって全学教育科目(グローバル教育科目)又は学部教育科目として扱われるが、各学科により対応が異なるため、別紙「グローバル教育科目(国際交流科目)の都市科学部における扱いについて」を確認すること。なお、表に記載されていないYCCS科目を履修する場合は、履修登録期間前に、都市科学部学務係に申し出ること。ただし、表に記載がない科目は、増加単位として扱われ、卒業に必要な単位に算入されない。

## 5. 学部学生による大学院開講科目受講について

卒業研究着手資格を有する都市科学部学生は、各学科の教務担当教員の指導のもとに、大学院環境情報学府、大学院都市イノベーション学府の各学府で定められた方法により、大学院博士課程前期科目の履修が可能である。

## 6. 放送大学科目の履修について

本学と放送大学との間で単位互換協定が結ばれているため、放送大学の授業科目を履修し、単位を修得した場合には本学で単位として認定する。放送大学科目の単位は、最大2単位まで全学教育科目の30単位の内数として認める。ただし、学科により卒業単位に算入されない科目もあるため注意すること。また、横浜国立大学開講科目で既に修得した科目と重複した内容の放送大学科目を履修した場合は卒業単位に算入されない。詳細は都市科学部学務係に相談すること。

卒業単位に算入される放送大学科目

放送大学科目 学科	基盤科目、導入科目、総合科目	英語科目	初修外国語	最大単位数
都市社会共生学科	2	0	0	2
建築学科／都市基盤学科 ／環境リスク共生学科	2	0	2	2

## 7. 横浜市内大学間単位互換制度について

横浜市内大学間単位互換制度とは、横浜市内にある国公立大学が単位互換協定を結び、各大学が提供する授業科目を相互に無料で履修できる制度である。修得した単位は全て増加単位として扱われ、卒業単位として算入することはできない。履修登録期間が決まっているため、詳細は都市科学部学務係に相談すること。